

GREEN ニュース

特集 ごみ減量県民運動化

第70号

環境アドバイザー連絡協議会
代表 須永 徹
平成 29 年 6 月発行



群馬県環境アドバイザーの動き

(平成 29 年 6 月 20 日現在)新規登録 93 名

第 10 期(登録期間:平成 27 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)です。新規登録者を含め平成 29 年 3 月 20 日現在、男 215 名 女 89 名、計 304 名です。

自然環境部会 72 名 温暖化・エネルギー部会 49 名
ごみ部会 42 名 広報委員会 20 名が登録し活動されています。
送付方法、メール 162 名 封書 142 名

群馬県の環境情報サイトに、
環境アドバイザーのページ開設

群馬県環境情報サイト
ECOぐんま

<http://www.ecogunma.jp/>
環境アドバイザーのページへ直接アクセスは、下記 URL へ
<http://www.ecogunma.jp/?p=3058>

目次(執筆者)

表紙画像・太田市 中島 沙織さん

P2 須永 代表から

P3 廃棄物・リサイクル課

P4 吉澤副代表から

P5 吉澤副代表から

P6 地域 高崎地区会から

P7 地域 高崎、館林地区から

P8 環境政策課



ごみ減量の県民運動化について

群馬県環境アドバイザー連絡協議会

代表 須永 徹

先に発表があったように群馬県の1人1日あたりのごみの排出量は、1,031gと前回よりは20g減りましたが全国ではワースト3位です。特に家庭から“燃えるごみ”として出されるものは、この記録を取り始めてから全国ワースト1位の状況にあります。そして、こういった悪い状況であることを県民のおよそ80%が知らないという現状もあります。

家庭から排出されるごみの処理はそれぞれの市町村によって分別方法はもとより、ごみ処理（袋）の有料／無料の違いもあって、それぞれの住民のごみに対する考え方に温度差があることは否めません。

環境に関する県民の意識は、アンケートによれば66%は「水・空気・自然環境」に満足またはやや満足と回答し、意外なことに「資源リサイクル」については51.4%の満足度です。どうも県の環境というと自然環境の方のイメージで“群馬の環境はいい”と思っているのかも知れません。

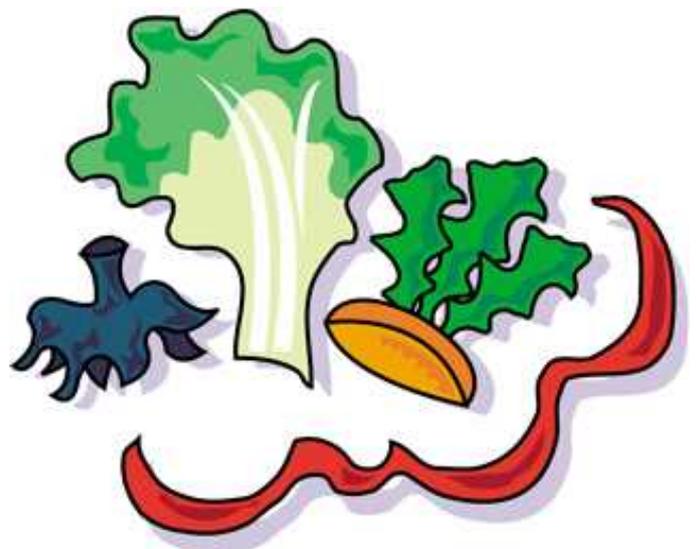
残念ながらごみ問題も環境問題であると受け止めている方は少ないかも知れません。

家庭からの燃えるごみ排出という不名誉な実績をなんとか脱し、全国に誇れるようにして行かなくてはと思います。

この”家庭からの燃えるごみ削減“については県民運動として県の廃棄物・リサイクル課の施策と連携しながら展開していきたいと思います。そのための環境アドバイザーの役割は非常に重要であり、それぞれが活動する地域の先頭に立って活動をして頂きたいと思います。

具体的な活動の一例としては

- ① 地域の集会などにおいて“家庭ごみ”の現状をお話しするとともに、県の施策「3切り運動」について知ってもらう。
- ② マイバッグキャンペーンと合わせてPRする。
- ③ 各自で3切り活動を実践していく。
- ④ 家庭からの燃えるごみ排出削減の仲間を増やす。



生ごみ削減のために、3つのきりに、御協力をお願いします。

群馬県環境森林部廃棄物・リサイクル課企画指導係

平成 29 年 4 月 13 日に環境省が公表した一般廃棄物処理実態調査の結果（平成 27 年度実績）によると、群馬県の 1 人 1 日当たりのごみの排出量は 1,031 g（全国ワースト 3 位）で、全国平均の 939g に比べ 1 割近く多い状況です。また家庭からごみステーションに出される燃えるごみ（生活系収集可燃ごみ）の 1 人 1 日当たりの排出量は、平成 19 年度から連続ワースト 1 位です。

ここで、県内市町村の焼却施設で受け入れたごみの内訳を見ると、生ごみが 3 割強を占めることから特に、生ごみの減量を進めていくことが課題です。

このため、第二次群馬県循環型社会づくり推進計画（平成 28 年 3 月策定）における県の取組の 1 つとして生ごみの減量、食品ロスの削減を掲げています。

生ごみの減量、食品ロスの削減のため、環境アドバイザーの皆さんと協力して、3きり運動を進め、県民一人一人の意識と行動を変えたいと考えています。

3きり運動とは、食品・食材について、使いきり、食べきり、水きりの3つのきりによって生ごみを減らそうというものです。具体的には、

・「使いきり」・・・食品・食材を無駄なく使いきる！

- 1 冷蔵庫や食品庫を定期的にチェックし、賞味期限・消費期限が切れる前に使いきる。
- 2 買い物の前に、在庫を確認し必要な物だけを買う。
- 3 残ってしまった料理も、アレンジして食べきる、など。

・「食べきり」・・・料理を残さないで食べきる！

- 1 料理は、食べきれぬ量を作り、残さないで食べる。
- 2 外食では、食べきれぬ分だけ注文し、残さないで食べる、など。

・「水きり」・・・生ごみを出すときに、^{みずけ}水気をきる！

- 1 生ごみになるものは濡らさない。野菜などの使えない部分は、洗う前に切り落とす。
- 2 水切りをする。生ごみを出すときは、ぎゅっと一絞り、水気をきる。

※ 前橋市「第2次G活チャレンジ！ステキにごみダイエット」では、「ひとしぼりで、生ごみの重量を 10%減らせます」と説明されています。

前橋市HP <http://www.city.maebashi.gunma.jp/kurashi/143/161/148/p016452.html>

- 3 乾燥させる。茶殻、コーヒーかす、果物の皮等、一晩おいて乾燥させる、など。

3きり運動は、特別な道具や準備は要りません。それぞれの場面で少し気を付ければできることばかりです。群馬県では、広報紙やホームページによる広報や、研修会・イベント等を通じて普及・啓発しています。

環境アドバイザーの皆さんには地域の方に呼びかけなど、3きり運動の拡大に御協力をお願いします。

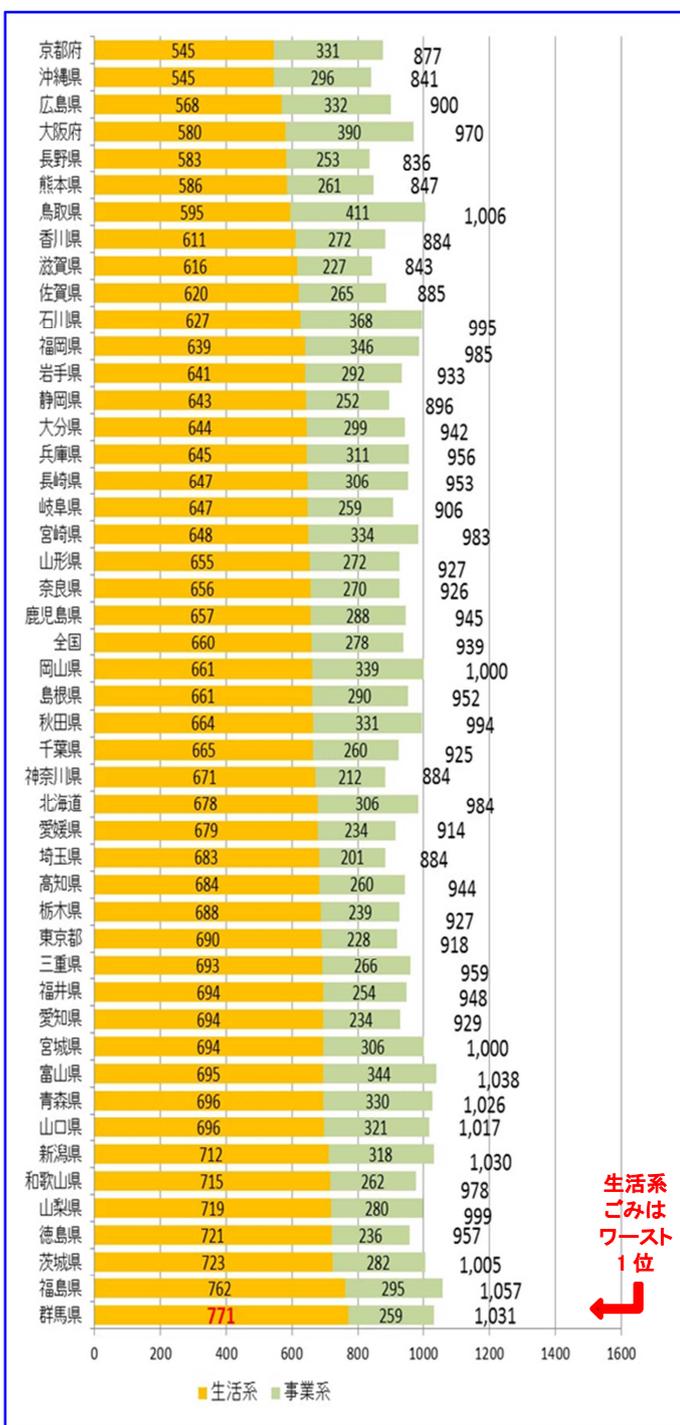
最新（平成 27 年度）の一般ごみ排出データ公表

群馬県は生活系ごみの一人一日当たり排出量は、前年度に引き続き、ワースト 1 位！

平成 29 年 4 月 13 日に公表された環境省の最新の調査データ（「一般廃棄物処理実態調査結果」）では、一人一日当たりの一般ごみの排出量は、群馬県は 1,031g/人・日で全国 47 都道府県中ワースト 3 位となり、前年度の 1,051g ワースト 2 位から、僅かに改善されました。しかし、私たちが毎日の生活の中で排出する“生活系ごみ”は、771g で前年に引き続き、ワースト 1 位でした。リサイクル率も 15.4% で前年度の 15.6% から悪化し、家庭から出される生活系ごみ減量の取り組みを県民運動として展開し、県民一人ひとりが毎日の生活を見直してごみを減らし、全国ワースト 1 位の汚名を返上しましょう。

(1)都道府県別一人一日当たり一般ごみの排出量
生活系順(平成 27 年度実績)

(2)都道府県別一般ごみのリサイクル率
(平成 27 年度実績)

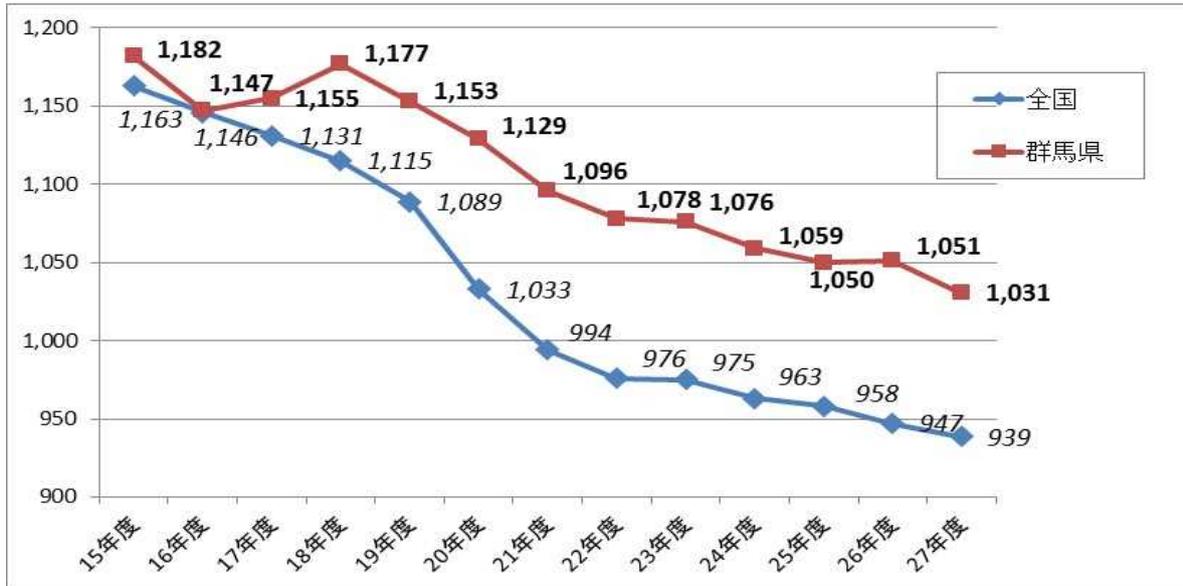


生活系ごみはワースト 1 位

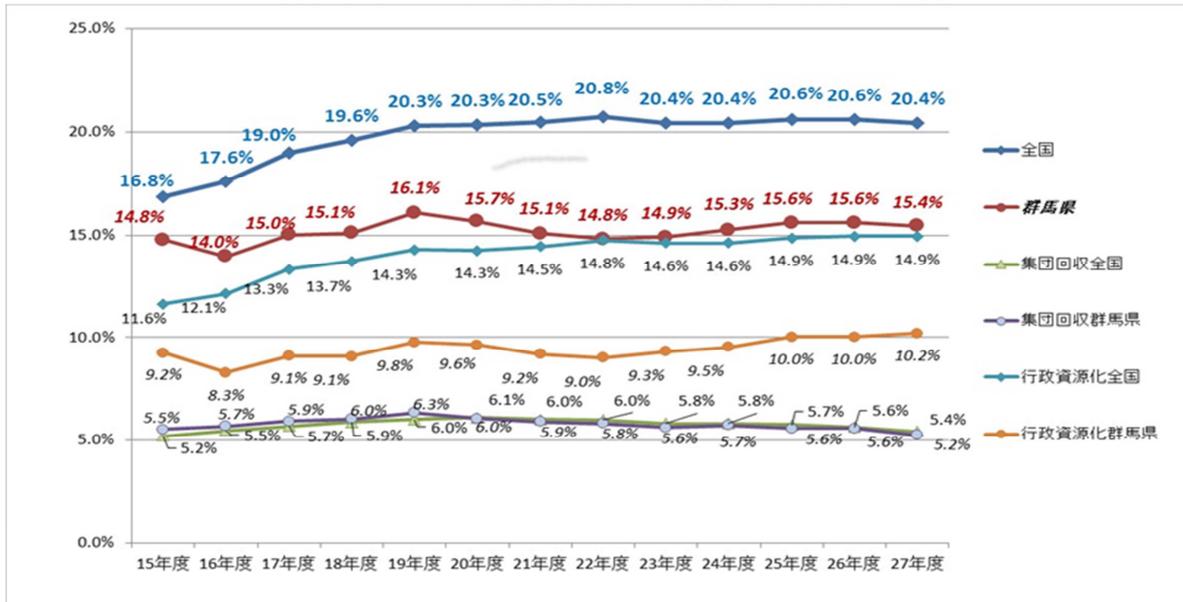


リサイクル率はワースト 7 位

(3)一般ごみの一人一日当たり排出量の推移(平成15年度から平成27年度)



(4)リサイクル率の推移(平成15年度から平成27年度)

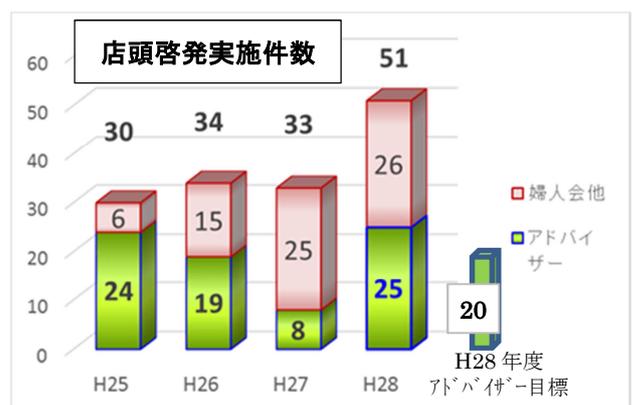


平成28年度群馬県環境にやさしい買い物スタイル普及促進協議会

環境アドバイザーのレジ袋削減店頭啓発実施件数は前年度の3倍に!

群馬県環境アドバイザー連絡協議会は、「群馬県環境にやさしい買い物スタイル普及促進協議会」のメンバーとして、マイバッグ持参の店頭啓発活動等を行っています(注)、ここ数年、店頭啓発件数が低下傾向にあることから、28年度はアドバイザーによる店頭啓発の目標件数を設けて、県内のアドバイザーの皆さんに店頭啓発の実施をお願いしてきました。

その結果、目標の20件を上回り、前年度の3倍の25件の啓発活動を行うことができました。皆さんのご協力に厚く御礼申し上げます。



(環境アドバイザー安中地区 吉澤 敏則)

第20回群馬銀行環境財団賞を受賞！

環境アドバイザー・高崎地区会はこの度「群馬銀行環境財団賞」を頂きました。テーマは「井野川から始まる高崎地区会の環境保全活動」で、源流から河口まで高崎市内で完結している井野川に注目し、中流部のゴミ拾い等の清掃活動・花の植栽活動などから始まり、夏休み中の子供にも呼びかけて、井野川の「水生生物観察による水質調査」や周辺の植物観察などで環境問題に興味を持ってもらう等の活動が評価されました。

平成21年度の第13回にも受賞しましたが、規約改正で5年以上経てば再応募できる事になり再受賞となりました。3月29日に群馬銀行本店で表彰式があり合わせて7団体が表彰され夕方の群馬テレビニュースで放映されました。



第20回 群馬銀行環境財団賞 表彰式 平成29年3月29日(水) 群馬銀行本店



主催：群馬県環境アドバイザー・高崎地区会

「井野川の水生生物の調査・観察会」

環境アドバイザー・高崎地区会では平成17年から定期的実施している井野川の水生生物の調査・観察会を本年度（平成29年度）も地域環境学習事業として下記により行ないます。多数の方々の参加をお待ちしております。

お子様連れでの参加大歓迎！低学年の方は必ず保護者同伴でお願いします。

-----記-----

1. 開催日時 : 7月22日(土) 午前9時～11時 小雨決行
2. 集合場所 : 浜川運動公園東口駐車場 <午前9時：時計前に集合>
3. 参加費 : 無料 参加：自由です (小学生以下は保護者同伴で)
4. 指導 : 土屋 清喜 先生
5. 身支度 : 日よけ帽子、タオル、飲料水、ゴム長靴等は各自で御用意ください。
6. 道具 : 全て主催者が用意します。
7. 連絡先 : 原田 TEL・FAX 027-344-6088
E-メール harakuni9292@yahoo.co.jp
田中 TEL・FAX 027-325-0721
E-メール rxk02772@nifty.com までお願いします。

◎参加希望者は電話・FAX・Eメール等で7月15日までにお申込み下さい。

.....

多々良沼の環境と歴史めぐり

あらためて自然環境部会からもご案内がありますが、環境アドバイザー館林地区の企画として「多々良沼の環境と歴史めぐりツアー」があります。どなたでもご参加いただけますのでいかがですか。

- 1、日 時；8月3日(木) 午前9時30分～午後2時頃まで
- 2、集合場所；県立館林美術館 駐車場（集合時間は9；30です）
- 3、内 容；①内陸古砂丘見学
②入野谷湿原の動植物自生地・食虫植物ムジナモの観察など
- 4、館林市のバスで巡回します。昼食は関東学園食堂になります。
- 5、申し込み先；田中 090-5430-6174
- 6、申し込み締め切り；7月20日(木)

週刊「風っ子」環境キャンペーン紙面内

「身近にできるエコ活動」ご提供のお願い

上毛新聞社が毎週日曜日に発行している子ども向け新聞・週刊「風っ子」で、おもに小・中学生が主体となって取り組んでいる環境保護活動について、紹介しています。

その紙面上で環境アドバイザーからのメッセージとして「身近にできるエコ活動」に関する情報を掲載し、家庭で気軽に取り組めるエコ活動を読者に紹介しています。

2017年4月から翌年3月までの期間、随時募集しておりますので、記事投稿へのご協力をお願いします。

記事ができましたら群馬県環境サポートセンターまでお送りください。

テーマ・内容（200字以内）・名前をご記載頂ければ形式は任意です。

毎日30万部以上購読されている上毛新聞への掲載は、群馬県環境アドバイザー知名度向上にも繋がりますので是非御協力お願い致します！！

風っ子新聞 平成29年4月30日掲載分（1例です）

身近にできるエコ活動

生き物をかわいがろう

すべての動物や植物にも命があります。生き物の命を大切にすることは環境にとっても大事なことです。どんな生き物にも生きている理由があるのです。

また、日本には絶滅のおそれのある動物や植物もたくさんいます。これらもちろん大切ですが、まずは身の回りの環境を大切にすること。そして、命の大切さを知り、他者への思いやりを持って生活しましょう。

群馬県環境アドバイザー 須永 徹

アンケート調査の協力について

日頃より本県の環境保全活動にご尽力いただき、感謝申し上げます。

さて、第10期群馬県環境アドバイザーにおける登録期間は平成27年度から平成30年度の3年間とされ、次期第11期の群馬県環境アドバイザー連絡協議会の方針を検討するため、環境アドバイザー向けのアンケートを実施しますので、ご協力をお願い致します。



〒371-8570 前橋市大手町一丁目1番1号

TEL:027-226-2827 FAX:027-243-7702

電子メール: ecosusumu@pref.gunma.lg.jp

担当: 群馬県サポートセンター（県環境政策課内） 松原・登坂